



基本領域 眼科専門研修

連携

- 京都大学大学院医学研究科眼科学専門研修プログラム
- 大阪赤十字病院眼科専門研修プログラム
- 大阪市立総合医療センター眼科・小児眼科専門研修プログラム
- 兵庫県立尼崎総合医療センター眼科学専門研修プログラム

1. 眼科の理念・特色

当科は兵庫県北部で唯一の眼科センターであり、但馬地域を中心に、京丹後地域の一部を含む眼科医療において中核的な役割を担っている。

網膜硝子体、緑内障、白内障、ぶどう膜炎を主に、角膜疾患、神経眼科一般、斜視弱視治療、未熟児網膜症など様々な眼科疾患に対する診療を行っており、さらに救急科とも連携し、外傷を含む眼科救急疾患にも24時間対応している。

また公共交通機関が少ない但馬地域では、高齢者でも車を運転する機会が多く、平日は毎日手術可能な体制を整え、早期治療により患者の視機能を運転免許に必要なレベルに維持するよう努めることで、地域住民の生活の質を守る事にも貢献している。

さらに学会や勉強会への参加費補助を積極的に行うことで、最新の知見を得る機会を多く設け、それを日常臨床に還元できるような環境を整えている。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

眼科学の専門的知識を習得し、新生児から高齢者に至る幅広い患者層の眼科疾患に対して、日々進歩する眼科医療に対応できること
 診断・検査・手術・術後管理を経験し、診断から治療に至る過程、治療の実際とその経過、患者に対する精神的ケアなど基本的な診療過程の進め方を理解していること

診療技能だけではなく、学会発表や論文作成を通して evidence に基づいた科学的な視点から思考できること

イ. 経験できる診療、習得できる技術

経験できる検査

- ・ 視力検査、屈折検査、眼圧検査、色覚検査
- ・ 角膜内皮検査、角膜形状解析、角膜知覚検査
- ・ 涙液分泌機能検査、導涙検査
- ・ 蛍光眼底検査(フルオレセイン・インドシアニングリーン)
- ・ 光干渉断層法による眼底検査
- ・ 視野検査(動量的視野検査・静的量的視野検査)、隅角鏡検査
- ・ 瞳孔検査、網膜電位図
- ・ 眼位検査、両眼視機能検査
- ・ 各種画像検査(単純X線、CT、MRI、超音波検査等)

経験できる疾患

- ・ 屈折異常
- ・ 眼瞼・角膜・結膜・強膜の疾患
- ・ 涙器・涙道疾患
- ・ 白内障
- ・ 緑内障
- ・ ぶどう膜炎
- ・ 網膜剥離
- ・ 黄斑円孔、黄斑上膜、中心性網脈絡膜症、加齢黄斑変性症を代表とする黄斑疾患
- ・ 糖尿病、高血圧、動脈硬化による眼底変化を代表とする眼循環障害・虚血性疾患
- ・ 網膜色素変性症、各種黄斑変性症を代表とする先天性、後天性網膜変性疾患
- ・ 視神経炎、眼位・眼球運動異常、頭蓋内疾患に続発する視機能異常
- ・ 眼窩内疾患

経験できる外科的手技

- ・ レーザー
虹彩切開術、後囊切開術、網膜光凝固術、選択的線維柱帯形成術
- ・ 外来処置
前房穿刺、前房水採取、角膜そうは、涙管通水、結膜下注射、テノン嚢下注射
- ・ 手術
白内障手術、緑内障手術(流出路再建術、濾過手術)、硝子体手術、外眼部手術(霰粒腫、翼状片、結膜縫合等)、角膜手術(帯状角膜変性)、硝子体注射

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	手術または外来	手術または外来	手術または外来	手術または外来	手術または外来	休日 (病棟当番)
午後	手術または外来	硝子体内注射、 手術または外来	手術または外来	硝子体内注射、 手術または外来	手術または外来	

4. 指導医・スタッフ

部長 ^{みなと かずみ} 港 一美

大学卒業年 1989年卒

専門	眼科全般、眼炎症、眼感染症
認定	日本眼科学会専門医

部長 ^{なかにし ひでお} 中西 秀雄

大学卒業年 2002年卒

専門	眼科全般、硝子体手術、緑内障手術
認定	日本眼科学会専門医、PDT認定医

医長 ^{すぎもと やすこ} 杉本 八寿子

大学卒業年 2013年卒

専門	眼科全般
認定	日本眼科学会専門医、PDT認定医

医長 ^{うちとみ だいき} 内富 大貴

大学卒業年 2017年卒

専門	眼科全般
----	------

医員 ^{たみやま まこと} 田宮 真輝人

大学卒業年 2019年卒

専門	眼科全般
----	------

5. 診療設備等

手術室には、手術顕微鏡 Proveo8、VISU200 S8、硝子体手術装置コンステレーション、超音波白内障手術装置センチュリオン、広角観察システム BIOM、涙道内視鏡等の最新器械が備えられている。

外来には、光格眼底カメラとして optos 200Tx、前眼部光干渉断層計として TOMEY 社 CASIA2、蛍光眼底造影装置および網膜光干渉断層計として NIDEK 社 Mirante、また HEIDELBERG 社スペクトラリスが備えられ、これらは NIDEK 社 NAVIS(画像ファイリングシステム)を介して各診察室で閲覧可能となっている。他に、光学式非接触型眼軸長測定装置 OA2000、ハンフリー自動視野計、ゴールドマン視野計、超音波診断装置、網膜電図、眼科治療用レーザーとしてマルチカラーレーザー、PASCAL、YAG レーザー等があり、これらの診断機器を使用して正確な診断のもと、治療を行っている。

6. 診療実績

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
白内障	967	853	713	840	565
網膜硝子体	155	120	88	113	74
緑内障	122	97	55	64	37
涙道	0	0	0	0	0
眼瞼	2	3	0	0	0
その他	92	49	43	21	12
硝子体内注射	1,993	2,182	2,198	2,519	688

7. 学会認定施設

日本眼科学会研修施設

先輩医師の声

卒後9年目の野田と申します。

公立豊岡病院で2年間の初期研修を行い、その際にこちらの眼科センターで研修させていただいたことがきっかけとなり、現在の進路を選択しました。

京都大学眼科専門研修プログラムの一環で豊岡に戻ってから約2年が経ちましたが、但馬唯一の眼科センターということで多彩な症例を経験することができ、執刀医としても時期によっては数か月先まで手術枠が埋まるほど症例数も豊富です。

また都会とは違い、眼科へのアクセスがわるいためか、重症化して初めて受診するケースも多く、成熟白内障や重症な糖尿病網膜症、角膜感染症なども比較的多く経験することができます。

そういった難症例に遭遇した際でも、ミニカンファレンスのような形で指導医の先生方とその都度相談にのっていただきながら診療を行っております。

当科に在籍している医師は出身大学や、医局も様々であり、それぞれの経験から異なる視点で意見交換ができるのも勉強になりますし、論文執筆においても熱心に指導、サポートして頂いております。

また当センターの特徴として、医師以外で専門性の高い診療スタッフが多く在籍しており、眼科に関して非常に勉強熱心で、患者様のメンタルケアまで補助していただけるため、日々の診療を最小限のストレスで円滑に進めることができます。

眼科はオンとオフが比較的はっきりしている診療科でもあり、プライベートでは城崎温泉で癒されたり、但馬の自然を舞台にキャンプやマリンスポーツ、冬場はスキー場まで近いので仕事終わりにナイターで滑りにでかけることも可能です。

研修を行うのには素晴らしい環境が整っておりますので、皆様とともに働ける日を楽しみにしております。

野田 和誉 医師